

青変症が発生しにくい秋冬ダイコン有望品種「YR夏かなで」の選定

1 背景・目的

秋冬ダイコンの遅播き作型の標準品種である「福誉」は、根部肥大と揃いが良いが、出荷後の流通過程で内部が青く変色する青変症が問題となっている。そこで、「福誉」と同等の肥大性等に加え、青変症が発生しにくい有望品種を選定する。

2 技術のポイント

- (1) 「YR 夏かなで」は、収穫後、青変症が発生しやすいとされる 20℃前後の温度で約 4～6 日貯蔵しても、発生は認められない(図、写真)。
- (2) 「YR 夏かなで」は、本県で栽培しても、標準品種と比べて内部品質や尻づまりは同等で、根長が長く根部肥大が優れ、横縞が少なく有望である(表)。

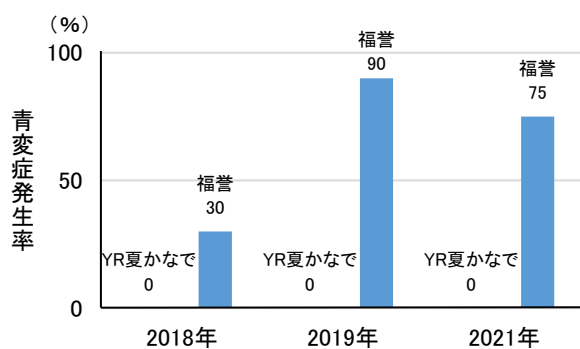


図 青変症の発生率比較

注1) 収穫後、温度 20℃で 4～6 日間貯蔵
注2) 2020年は発生しなかったためデータ省略



写真 青変症の様子

左: YR 夏かなで(無発生)、右: 福誉

表 収量・品質等の調査結果

年度	品種名	根長 (cm)	根径 (mm)	根重		尻づまり 程度	横縞 程度	す入り 程度	空洞 程度
				(g)	(変動係数)				
2018	YR夏かなで	30	72	892 *	15.5	79	0	0	0
	福誉	29	72	807	13.5	61	0	0	0
2019	YR夏かなで	34 **	73	1,215 **	10.4	95	0	0	0
	福誉	31	73	1,097	10.7	100	3	0	0
2020	YR夏かなで	35	73	996	9.8	88	0	0	2
	福誉	35	73	1,044	14.6	79	12	1	1
2021	YR夏かなで	39 **	80 *	1,476 *	16.1	90	3	0	0
	福誉	36	76	1,263	20.6	88	57	0	0

注1) 収穫までの播種後日数は、2018年は60日、2019年は59日、2020年は59日、2021年は56日で、各品種20～30個体を調査

注2) 横縞、す入り、空洞の発生指数:0(無)～3(甚)、尻づまり:0(不良)～3(良) 程度 = $\Sigma(\text{指数} \times \text{個体数}) \div (3 \times \text{全調査個体数}) \times 100$

注3) t-検定により、**は1%、*は5%水準で有意差あり

注4) 変動係数(標準偏差/平均値)は、値が低いほど揃いが良い

3 成果の活用と留意点

- (1) 「福誉」の代替品種として遅播き作型(8月下旬以降の播種)で導入が見込まれる。
- (2) 収穫 10 日程前的大雨で裂根が発生することがある。

問合先: 砂丘地農業研究センター TEL 076-283-0073
担当者: 諸角大地・増田大祐